

令和3年度 松山市廃棄物処理施設審議会
第1回 技術検討部会議事要旨

1. 開催日

令和3年11月22日（月） 10:00～11:20

2. 開催場所

松山市一番町3丁目20

坂の上の雲ミュージアム 3階会議室

3. 出席者

○部会員（敬称略、五十音順）

島岡 隆行（部会長） 九州大学大学院教授

高橋 真 愛媛大学大学院教授

山中 稔（副部会長） 香川大学教授

○オブザーバー

愛媛県 県民環境部環境局循環型社会推進課 3名

環境省 中国四国地方環境事務所四国事務所資源循環課 1名（Web）

○事務局

松山市環境部 宇野部長、松本副部長

廃棄物対策課 門屋課長ほか6名

4. 議題

(1) 維持管理中の水質等のモニタリング結果について

(2) 維持管理費用の削減について

(3) その他

5. 議事要旨

(1) 維持管理中の水質等のモニタリング結果について

①地中温度・埋立地のガス測定結果

埋立地の地中温度については埋立地外のものと同程度であること、埋立地のガス測定結果についてはメタン濃度が高い地点はあるものの、発生するガス量は測定器で測定できない程少量であることを説明した。

- ・硫化水素が検出されているが、このことは廃止する上で問題とされないか質問があり、今回の測定結果ではガスの発生量はほとんど認められず、廃止基準に定めるガス発生量の値を満足していることから特に問題ないと考えていること、また、メタンについ

ては「廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法（廃棄物学会、平成 14 年 3 月）」で 5%以下という基準が示されているが、今回の測定結果では、この基準には適合していないものの、この条件は厳しすぎるためメタンの基準については廃棄物学会で見直すことが検討されていると聞いていると回答した。

②水質分析結果

保有水及び浸出水は一部の項目で排水基準を超過しているものの、放流水では適切に処理して放流できていること、壁内の地下水の水質は、環境基準を満たしていることを説明した。

③遮水壁内外水位の観測

遮水壁内の地下水は、揚水することにより壁外の地下水より低く管理できていることを説明した。

- ・降雨の浸透量を調整するためキャッピングシートに穴を開けた効果について問われ、概ね設計どおりの浸出水量が発生していることから、効果が得られていると回答した。

④埋立斜面の観測

埋立斜面の変動は基準値内であり問題ないことを説明した。

⑤モニタリング結果に基づく廃止基準適合の状況

埋立地から発生するメタンガス濃度及び浸出水の水質のうち窒素が廃止基準を満たせていないことを説明した。

- ・ガス測定結果のメタンは、廃止基準の見直しを待つだけでなく早期の廃止のために積極的な対策を検討すること、また、メタンが 5%以上でも廃止することができた事例がないかの調査や、当該項目が不適であっても廃止できるような検討が必要との意見があった。

(2) 維持管理費用の削減について

維持管理費用削減のため、今後、モニタリング項目の合理化や埋立地の有効利用について検討を行いたいことを説明し、了承された。